

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

代表者名

田口 正夫

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和4年7月19日提出

活動年月日	令和 4年 5月17日（火）～ 5月19日（木）	
氏名	田口 正夫	
用務先 及び 内 容	1 5月17日	用務先 青森県八戸市 内 容 八戸ポータルミュージアムについて
	2 5月18日	用務先 北海道函館市 内 容 M I C Eの取り組みについて
	3 5月19日	用務先 北海道札幌市 内 容 札幌市民交流プラザについて
備 考		



行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視 察 日	令和4年5月17日（火曜日）
視 察 内 容	八戸ポータルミュージアムについて（青森県 八戸市）
視 察 者	田口正夫

（１） 八戸市の概況

ひと・産業・文化が輝く北の創造都市

八戸市は、人口約22万人、太平洋に臨む青森県の南東部に位置し、県内第二位の都市。夏は、偏東風（ヤマセ）の影響を受け冷涼で、冬は晴天が多く乾燥する。また、北東北にありながら降雪量が少なく、日照時間が長いことが特徴。地形は、なだらかな台地に囲まれた平野が太平洋に向かって広がり、その平野を三分する形で馬淵川、新井田川の2本が流れ、臨海部には大規模な工業港、漁港、商業港が整備され、その背後には、昭和3



議長寺地さんに観光リーフレットを渡す

9年の新産業都市指定を契機に形成された工業地帯が展開しているそのため、優れた漁港施設や背後施設を有する全国屈指の水産都市であり、北東北随一の工業都市となっている。平成17年3月31日には、海から拓け、海と共に発展してきた八戸市と、豊かで自然を有し、果樹やその加工品を特産とする南郷村と合併により、海と山の魅力を併せ持つ、新生・八戸市が誕生した。

平成29年1月1日には、全国で48番目となる中核市の指定を受け、同年3月22日には、近隣7町村（三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町）とともに連携中枢都市圏を形成し、地域の経済や住民生活を支える東北有数の都市として発展を遂げ、陸（東北新幹線、東北縦貫自動車道）・海（八戸港）・空（三沢空港、青森空港）の交通結節点、令和元年には、市制施行90周年という節目を迎えた。

（２） 八戸ポータルミュージアムhacchi

中心市街地の郊外化が進む中、街中の賑わいに歯止めをかけるために「八戸市中心市街地活性化計画」を作成実施し成果が出始めている。

中心市街地の歩行者通行の減少が続いた平成23年に、「八戸ポータルミュージアムはっち」が整備され、以後「ブックセンター」「マチニワ」などの施設整備が進み、複合交流拠点施設として、多くの市民の活動に繋がっている。

※はっちの目的

新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図ることで、中心市街地と八戸市全体の活性化を目指す。

※建物のコンセプト

「はっち」は八角形の中庭を中心に、八戸の中心街の特徴である路地、横丁のような回廊や、広場のような空間があり、八戸の魅力を再発見しながら、各所で観覧や活動、ショッピングや飲食、休憩を楽しめる立体的なまちとして造られている。

※展示のコンセプト

八戸の見どころや魅力を分かりやすく紹介し、ここから各フィールドに誘うポータル(玄

関口)として位置付けた上で、その展示作品等は市民作家や市民学芸員により制作され、八戸の資源とともに、八戸の誇りを伝える。

※事業のコンセプト

「地域の資源を大事に想いながら新しい魅力を創り出すところ」

八戸には人、物、食、文化などの財産がたくさんあります。それらを地域の誇りとして改めて見つめ直し、時には、新しいものを取り入れながら、育み、新たな魅力を創り出し活性化することで、市民の地域への更なる誇りにつなげる。

※はっちの事業

- | | |
|----------|--|
| 1 会所場づくり | 多様なひとや情報の交流に開かれ、地域の文化にふれる場。
(こどもはっち・はっちひろば・リビング・カフェ・ショップ・観光展示ほか) |
| 2 貸館事業 | 創作活動をサポートする、施設の貸し出しと人的サポートの提供。
(シアター・ギャラリー・各種スタジオ・レジデンスほか) |
| 3 自主事業 | 地域資源を活かした事業のプロデュースにより新しい価値を創造。
(中心市街地賑わい創出事業・文化芸術活動振興事業・ものづくり事業・観光振興・フィールドミュージアム八戸推進事業) |

以上のような、多くの機能を持った施設であった。

次に案内をされたのは、「マチニハ」(八戸まちなか広場)でガラスの屋根でできている。天候に左右されない、開放感のある多目的スペース、年中無休の憩いの空間である。市民の居心地の良い場所、街中の庭のような場所、近くにバス停があるため、ちょっとした待合の場所、中心市街地にあるオープンエアの「なにか」、「だれか」に出会える場所、実際に訪ねてみて、八戸の皆様のやさしさ、温かみを感じる場所であった。

次に案内されたのは、「八戸ブックセンター」でした。1. 本を読む人をふやす・2. 本を書く人をふやす・3. 本でまちを盛り上げる、という方針で開設された、まったく新しい書店のかたちです。本の種類もいろいろあり、マニアックなものまで有り興味のわくものでした。驚くのは、ハンモックでの読書スペースやアルコールも提供ができる飲食等スペースがあることです。



【感想・岡崎市への反映】

- ・ 中心市街地の活性化問題は、どこの市も重要だと考えているが、行政だけでなく、八戸市のように、より幅広くたくさんの市民の参加のもとに、いくつかの考えの中からチョットしたアイデアを、見逃さず、本市にあった独特のかたちを作り上げるために、まずは、必要になる人材や居場所等の提供を考え、人を育てる、町を作る、未来を考えるといった先を先をと考えて、つないでいく、そして、作り上げたものを実施して、地域、町全体の活性化を図っていく、その過程の中で、行政、市民の未来都市岡崎のロマンをもって、推進していく。
- ・ 箱もの行政は、とにかく何かと言われることが多いが、まず、入れ物(多くの人が集まれる場所)を、作ることも必要ではないかと考えます。

行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視 察 日	令和4年5月18日（水曜日）
視 察 内 容	MICEの取り組みについて（北海道 函館市）
視 察 者	田口正夫

（１） 函館市の概況

ふれあいとやさしさに包まれた世界都市

函館市は、人口約24万人、北海道の南西部渡島半島の南端に位置し、安政6年（1859年）、横浜・長崎とともに日本最初の国際貿易港として開かれて以来、早くから海外との交流が始まり、近代日本の幕開けの中でいち早く外国文化に触れ、市民の中にも新進的な国際感覚が息づく、長い歴史と文化を有する街です。平成の大合併北海道第1号として、平成16年12月1日に井戸町、恵



説明員猪木様、大平様に観光リーフレットを渡す

山町、檜法華村、南茅部町と合併「海」を生かした街づくりを基本理念とし、「国際水産・海洋都市」の形成を図っていくとともに、特色のある観光資源を生かし「国際観光都市」としてさらなる発展を目指している。平成17年10月1日には「中核市」に移行し、今まで以上に身近な市民サービスの提供や、地域特性を生かした施策が可能になった。平成17年5月に着工された北海道新幹線が平成28年3月26日に新函館北斗駅まで開業となったことから、今後も、これに向けたアクセス体系の整備を、より一層図るとともに北海道縦貫自動車道など道路網を建設促進し、あわせて重要港湾函館港、函館空港の整備など総合交通体系の整備充実を行っている。

平成29年に「函館市基本構想」（令和8年度を目標年次）を策定し、将来像を「北のクロスロード HAKODATE～ともに始める 未来を拓く～」と定め、これを実現するために2つの重点プロジェクトと5つの基本目標を掲げた。

※ 2つの重点プロジェクト

- ・ 経済再生プロジェクト
- ・ 魅力向上プロジェクト

※ 5つの基本目標

- ・ まちの賑わいを再生し未来へ引き継ぎます
- ・ 子供・若者を育み希望を将来へつなぎます
- ・ いつまでも生き生きと暮らせるまちをめざします
- ・ 日本一魅力的なまち函館を次世代へ継承します
- ・ 持続可能な都市の基盤を構築します

以上のように、体系的にまちづくりに取り組んでいる。

（２） MICE（コンベンション）誘致の取り組みについて

※MICEとは

- Meeting → 企業等の会議、研修、セミナー
- Incentive → 企業の行う報奨・研修旅行
- Convention → 国際機関・団体、学会が行う総会・学術会議
- Exhibition/Event → 展示会・見本市、イベント

函館市における誘致活動と開催支援は、ほとんどが「コンベンション」である。

MICE誘致の目的と効果、なぜ、MICE（コンベンション）を誘致するのか？

※MICE開催で、直接地元にお金が落ちる。

※消費単価の高い参加者が地域に滞在し、直接消費をおこなう。

※MICE関係者と地元企業・団体等との交流の機会が構築される。

※特定のMICE開催による地域ブランドの向上が図られる。

MICE開催の支援の内容、観光パンフレット等の提供、歓迎看板の設置、市電の車体広告による広報宣伝、記念品の進呈、他に函館市の特色として、インフォメーションデスクの設置、コンベンション開催補助金の交付。

前記のほか、会場、懇親会会場の空き状況の確認、予約の代行。会場のレイアウトの提案。会場費の見積代行。函館市電（路面電車）、路線バスの増便依頼。地元業者の紹介（設営、看板、昼食手配、物販飲食店等）。アフターコンベンションの提案。

（３）コンベンションの増加の要因

平成27年8月（2015年）函館アリーナ開業

※大規模コンベンションの開催が可能になった（最大5,000規模）

平成28年3月（2016年）北海道新幹線（東京駅～新函館北斗駅）開業

※輸送力の増加（北海道新幹線の開通 1日約1万人）

他に、今後の予定は、医学学会、自治労大会、インターハイ等の開催、他にも、急な大会等も迅速に対応をする体制を整えている。

（４）今後の課題

◇コンベンションからMICEへ → 誘致対象の拡大（コンベンション以外の誘致）
（企業セミナー、インセンティブツアー、イベントなど）

◇大規模コンベンションの誘致 → 函館アリーナ開業と開催実績の周知

◇ユニークベニューの洗い出し

◇補助金制度のMICE全体への対応検討

◇コロナ禍以後のMICE開催形態への対応について

（オンライン／ハイブリッド開催への支援etc）



コンベンション施設 函館アリーナ



【感想・岡崎市への反映】

- ・今回視察をさせていただいた、函館市は、観光部観光誘致課職員2名の方のMICEに対する考え方、とりわけコンベンションについての考え方、そして、誘致に対する積極的な思い等が熱く私に伝わってきました。その考え方に心から力強さを感じられました。ただただ感心するばかりであり、MICEの成果が上がっていくことと思われます。その力強さはどこから来るのか、それは、すぐに理解できました。それは、大規模コンベンション（函館アリーナ）の開業、北海道新幹線の開通、この2つが大きな要因である。函館市は、観光客も多く、ホテルも数多くあり収容する人数も多い。
- ・本市も多くの観光地があり、それを生かすための努力をしているが、まずは、大規模なコンベンションホールの必要性を感じた。人を招くには、まず収容できる施設が必要であると、今後もコンベンションホール等の必要性を話していきたいと思います。

行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視 察 日	令和4年5月19日（木曜日）
視 察 内 容	札幌市民交流プラザについて（北海道 札幌市）
視 察 者	田口正夫

（１） 札幌市の概況

時計台の鐘がなる街・笑顔になれる街

アイヌの人たちが住んでいた蝦夷（えぞ）地は、明治2年（1869年）に北海道と改称され、開拓使が置かれ札幌本府の建設が始まりました、半官・島義勇（しまよし）は、円山の丘からはるか東方を見渡し、街づくりの構想を練ったといわれている、明治8年（1875年）、最初の屯田兵が入植。人々は遠大な札幌建設計画に基づいて、鉄道を敷き、産業を興して、道都・札幌を築いた。設置以来、北海道の開拓の拠点として発展を続け、



管理課長松平様に観光リーフレットを渡す

現在では人口約197万人（北海道の人口の約3割）全国で5番目の人口の規模になっている、北海道・石狩平野の南西部に位置し、東は石狩川から野幌原始林にかけて低地帯、西は手稲山系、南は支笏洞爺国立公園に連なる一大山地、北は日本海に接する石狩砂丘地に囲まれた全国屈指の広大な面積を有した都市である。大正11年8月1日（1922年）に市制施行以来、近隣町村との度重なる合併・編入により、市域・人口を拡大し、昭和45年（1970年）に100万人を突破、昭和47年（1972年）に政令指定都市になる、気候は日本海型気候で、夏はさわやか、冬は積雪寒冷を特徴としており、四季の移り変わりが鮮明であり、本州のような梅雨は見られないのが特徴である。昭和47年（1972年）2月にはアジアで初めての第11回冬季オリンピック開催、昭和61年と平成2年のアジア冬季大会、平成3年ユニバーシアード冬季大会、平成2年から行われているパシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）、平成11年中央アジア非核兵器地帯国連札幌会議など国際的なイベントや会議を開催し、国際コンベンション都市なり、国際的に知名度が高まり札幌のまちに世界中から観光客が訪れるようになった。

（２） 札幌市民交流プラザについて

※市民交流プラザは、札幌市民会館の後継施設として建設の話が持ち上がった。市の中心街でもあり、再開発の協議は思うようにいかなかったが、同規模のホールを持つ札幌芸術文化館の後継施設として、市内にはなかったバレエやオペラ・ミュージカル等のできる高機能ホールとして建設をされた。札幌市の所有部分についての事業費は、約354億円。

・札幌文化芸術劇場（hitaru） 3F-9F

（国内外の優れた舞台芸術やさまざまな公演を鑑賞できる2,302席の劇場、各種練習室）

・札幌文化芸術交流センター（SCARTS） 1F-2F

（市民やアーティストの文化芸術活動をサポートするなど、札幌の文化芸術を支え、育てていく、文化芸術の中心的な拠点）

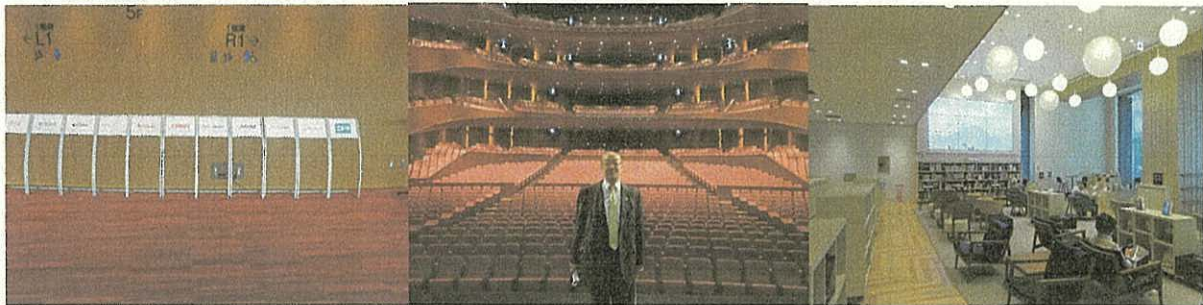
・札幌市図書・情報館 1F-2F

（都心に集う人々に、仕事や暮らしに役立つ情報や札幌の文化・歴史・自然等に関する

る資料を提供する課題解決型図書館)

※現状の特色・役割・課題として、

- ・図書・情報館は、ジャズピアノ曲など心地よい音楽が流れ、1階にはカフェがあり、コーヒーを図書・情報館に持ち込むことはもちろん、図書館の本をカフェに持ち込むことができる。主役である本が目立つよう、シンプルな空間を心掛け、せきは用途に合わせ、ワーキング席(1人用)、グループ席(2人から4人)、ミーティングルーム(5人から12人)を用意、他に、集中したい利用者のためにリーディングルーム(1人用、このみ会話・パソコン不可)も用意。残りの半分は自由に気楽な雰囲気でも本を読んでもらえるよう、自由席として、色とりどりのデザイン性の高い椅子を配置。
- ・災害時に滞在場所として利用可能。開館前であった時に、市内で地震があり、市の判断で避難場所として施設を開放したことがある。その時に停電したが、施設内にはハイブリットの設備を有しており、通常通りに電源確保ができたため、観光客、特に海外の観光客の滞在施設として利用が可能であった等。
- ・札幌文化芸術劇場(hitaru)のオフィシャルスポンサー協賛金制度があり、法人・個人で申し込みができる(一年間)。
- ◇法人は、10万円(一口)特典は、スポンサーボードやデジタルサインネージの名前掲出、主催公演への招待、各種広告物や施設ホームページへの名前掲載等。
- ◇個人は、2万円(一口)特典は、施設ホームページへの名前掲載、主催公演への招待、特性バッチの提供等。
- ・リピーターになってもらうため、様々な取り組みをしながら、よりよい運営体制を構築していく必要がある。
- ・収容人数が最大で2,302人であるために、一斉退館するのに時間がかかる等が課題である



【感想・岡崎市への反映】

- ・今回視察をさせていただいた、札幌市民交流プラザの特色は、劇場、センター、図書・情報館と、3つの公共施設が入った複合施設のため、それぞれの施設が連携しながら一体的なつくりとなるよう運営を行っている。
- ・劇場内を視察させていただきました。中に入らせていただき、わざわざ照明までつけていただき、ステージの上から観客席を見た時の、本当に広々とした場所であった、ステージも広々として、奥行きのある大変すばらしい劇場であって感激をいたしました、やっぱり、「百聞は一見に如かず」、現地に行って、職員の皆さんに直に話を聞き、そして肌で現地を感じることが視察に出かける、本当の勉強である。
- ・南海・東南海等の地震やその他の災害に対して市民の安全安心、また命を守る避難場所として今後建設及び建物の改修等をする場合は、防災の基地となるような、災害備蓄品や非常用に役に立つ発電機設備及び蓄電池設備、飲料用の水槽での水の確保等ができる施設整備を行って行くといい。この視察に対応をいただきました札幌市交流プラザ、図書・情報館の方々の熱い心のこもったご案内をいただき、予定時間を1時間以上も延長をしてしまいましたが、最後まで熱心にご説明をいただきましたこと心より感謝します。